



## 座談会

### 心の通った福祉を実現するには

#### — 地域福祉をめざす —

従来、施設中心に展開されてきた福祉対策は、老人、身障者などの在宅対策を合わせ強化する方向に向ってしております。社会的弱者と呼ばれる人達が地域社会とのかかわりの中で、いかに生き甲斐をもって生活できるかという問題も提起されております。これらの対策として、心の面を重視した地域福祉という考え方が要請されているわけです。ここでは、福祉の関係者に、福祉の現況、問題点とこれからの福祉の方向としての地域福祉について語ってもらいました。

#### 出席者

老人クラブ	丸岡憲市
未亡人団体協議会	保田 田
身体障害者相談員	西尾之典
民生児童委員	守尾邦季
家庭奉仕員	松岡照子
社会福祉協議会	重石隆三
(司会)福祉生活部長	松下敏郎

**部長** 今年は昭和五十年代の幕明けでございます。昭和二十年を境として昨々までの三十年間は戦争によって総てを失ってしまった日本がなんとか生きていくために経済の発展と物の豊かさを求めて遮二無二努力した時代です。しかしながら、経済中心、物中心の時代は四十九年で完全に終わったといえます。

すなわち、一昨年の石油ショック以来、皆さんの身近かにご経験なっておりますインフレ、物価高それに、最近はその状況が共存し、県内では、約二千人近くの

解雇者がでているといわれております。このように県民生活はかつてない厳しい様相を帯び試練にさらされておりますがそれだけに社会保障、社会福祉の重要性があらためて認識されることになりました。

本日は社会福祉の各方面の第一線におられたり、ご経験の深い方々にお集まりいただいて福祉の今後の方向等についてご意見をうけたまわりたいと思っております。

### ◆激動する社会情勢に想う

**□福祉とは何かの反省から**  
保田 いま、まさに転換期ですね。私は組織をあくまで守りますが、福祉そのものの考え方が、国民的な問題かも知れませんが、県民にまだ本当に浸透していないことを痛感しています。

福祉というものは「何か頂戴するもの」という考え方が普通であって、自分達は何をなすべきかという反省が足りないんです。与えられるものでなく一人、ひとりが自らの努力で創り出して行くことではないかと思えます。

私は福祉は陽の当たらないところに陽をあてることと考えています。そこで先ず社会全体の組織活動の中で福祉についての教育活動をしっかりやらなければなりません。四十七年から、国県のご指導を受けて、未亡人の自立対策のためのいろいろな技術講習をしておりますが、年代によって福祉に対する考え方が本当に違ふんです。

**部長** 福祉行政を担当していて、現在は福祉優先という掛声は強いわけですが、一般的には「福祉とは何か」ということが問い直されておると思います。まず、確かに制度は一応レールに乗ってきまして、それが本当に住民の個々のニーズに対応した充分なものであるかどうかという事です。

次に、昨今のように物価が上がると社会的弱者といわれる人々、老人、身障者、母子世帯、生活保護世帯といった方々が、一番もろにその影響を受けておられると思います。社会全般的に見て公平であるかどうかといったことや、また各制度間にバランスがとれているかといったことを行政側では反省いたしております。

只今は、住民の方々の福祉についての教育が大事だというお話がありました。なんでも行政や政府が悪いんだ、責任だというご意見も困りますが、我々として、将来あるべき方向を再検討しまして、福祉の内容を再検討しまして、これに比べていかなければならないと思っております。

#### □積極的にニーズの把握を

重石 部長さんが行政の立場から言われましたが、社会福祉は、国や県の計画や指導だけでは達せられません。

社会福祉協議会の活動としても、県下市町村でそれぞれの地域に即して行なわれていますが、地域社会の正確な実態の調査把握も大切です。そして、活動そのものも、一部の組織活動としてではなく、広く住民の方々が参加していただくことですね。その上で県民の皆さんが社会福祉を自分のこととして考えていたかどうかと思えます。

やはり、その中核となっていたく民生委員さんの役割は大きいと思えますね。

守尾 私は、今日の激動する社会に対応するに、民生委員はこれまでのような気持ちでいいのだろうかということをお聞きしたいです。従来の民生委員のあり方としては、どちらかといえば、受身の民生委員、相談にこられた方の相談に乗るというふうな、また、救貧、防貧というふうなものだけに頭を向けていたのではないかと感じます。しかし多種多様な社会情勢の下では「考える民生委員」「行動する民生委員」「思いやりのある民生委員」が地域社会で要求されてきています。積極的に足を運ぶ調査をする相談を受ける。また、相談を受け、調査をしたものに対応して善処してゆくといった心構えが第一ではなからうかと思えます。

言葉を替えれば、地域のニーズという